

こっこめ通信

「来て欲しいのと来て欲しくないの」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

12 2014

11月22日、底土海水浴場に一頭のクジラが打ち上げられました。このクジラはアカボウクジラ科オオギハクジラ属の一種で、DNAから種の特定が進みそうです。大きな写真や詳細はホームページ「最近の話題」で紹介していますのでそちらをご覧ください。

http://www.hachijo-vc.com/topics/archives/2014/11/post_1167.php

さて今回は、「八丈小島の調査に同行して」「大発生は大迷惑！その正体を探る」のお話です。



八丈小島調査に同行して

11月17日、伊豆諸島自然史研究会のクロアシアホウドリの生息調査に同行し、八丈小島に上陸しました。

今年の2月、抱卵していたクロアシたちが何者かに襲われてしまう惨事が起きています。生き残ったクロアシたちはもう小島には戻って来ないのではないかとネガティブな考えでの上陸でした。上陸した小島は、黄色いワダンが満開に咲き、ジョウビタキやヒバリが私たちを迎えてくれました。上空にはノスリが旋回し、ハシブトガラスとケンカもしています。八丈島と同じく、道の脇にはイズノシマダイモンジソウやシチトウミシの花も咲き、足下にはホシササキリやホシホウジャクの幼虫など小さな虫たちもいました。去年と全く変わっていない八丈小島でしたが、昨年のこの時期にたくさんいたクロアシの姿はどこにもありませんでした。夕方になれば戻ってくるのではないかと少し期待したのですがそれもありませんでした。

しかし、翌18日の再調査の折、上空を旋回していた1羽のクロアシが八丈小島に降り立ったそうです（写真右）。これから後を追ってたくさんのクロアシが降り、また繁殖まで辿り着いてくれるかもしれません。希望の光が少し見えてきました。

八丈島側から見た八丈小島



クロアシアホウドリ



Photo by Mori yuka

ヒバリ

ヒバリは、「オオヒバリ」「カラフトチュウヒバリ」「ヒバリ」の3亜種に分けられています。八丈島では「オオヒバリ」「カラフトチュウヒバリ」の記録があります。画像のヒバリは、「何ヒバリ？」



イズノシマダイモンジソウ



ジョウビタキ



ホシホウジャクの幼虫



ノスリ



ホシササキリ

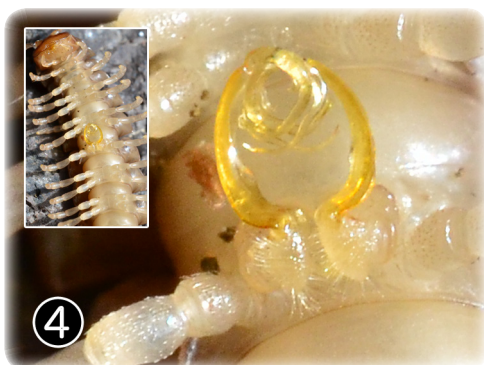


ワダン



「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

大発生は大迷惑！その正体を探る



八丈島では10～11月に歩き回るヤンバルトサカヤスデというヤスデが生息しています。発生数は年によって違い、大発生する年もあります。特に今年は大発生の年で、地区によっては過去にない数となっています。そこでこのヤスデのことを少し調べてみました。

ヤンバルトサカヤスデ【*Chamberlinius hualienensis* Wang, 1956】はヤスデ綱（倍脚綱）オビヤスデ目ヤケヤスデ科トサカヤスデ属のヤスデで、台湾が原産とされています。現在は日本各地で生息が確認され、沖縄や奄美大島、鹿児島県など大発生している地域もあります。八丈島では2002年11月に中之郷地区で初めて大発生しています。

成体の体長は40mm前後、体色は褐色で背板に黒褐色の斑があります。体節は20節に分かれ（写真①）、第2～4節に1対の脚、第5～18節にそれぞれ2対の脚（2対の脚があるため倍脚類と呼ばれています。ちなみにムカデは1対）、計62脚あります。オスは第7節の前の歩肢が生殖肢に変形（写真④、①矢印）しているため60脚になります。亜成体（7齢幼虫）の背板は19節で生殖肢が発達していません（写真②）。また、脱皮直後の成体は全体が白く、斑がほとんど見られず、別種のようにも見えます（写真③）。

生活史は、年1世代。12月頃に産卵し、7回の脱皮を繰り返し、11月頃に成体になります。しかし、八丈島では春に成体が見られることもあるので越冬する成体が多いのかもしれません。そして、産卵期前の10月～11月は群遊と呼ばれる移動を始め、玄武岩の石垣に数千匹ものヤスデが群がることもあります（写真⑥）。外灯などの下に集まる傾向があるので光に向かう光走性が少しあるのかもしれません。さらにこの時期は家屋の基礎を登り、屋内に入り込み、住民を悩ませています。梅雨時に亜成体が群遊することもあります。

また、危険を察知すると身を守るために固い背板を外側に頭部を中心に丸くなります（写真⑤）。この時に不快な臭気を出します。食性は主に植物の葉や朽ちた木などを好んで食べますが、昆虫などの死骸を食べる姿も確認しています（写真⑦）。

一年しか生きられず、毎年大発生しているわけではないので気温や降水量によって成虫になる確率が変わるのかもしれません。今年は何故か9月から亜成体の群遊が始まり、徐々に成体の群遊へと変わっていききました。何かのきっかけで大発生するはずなので、その“きっかけ”が分かれば駆除の手立てになるはずです。ビジターセンターでももう少し観察を継続し、その“きっかけ”を探したいと思います。



八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は11月9日(13時30分～15時)に行いました。

八丈植物公園季節調査(平成26年第11回)参加者・沖山, 矢野, 茂手木, 金田, 黒田, 石高, VC 菊池

NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)
草本			34	ニワホコリ	実	シダ植物	
1	アオツツラフジ	実	35	ネズミノオ	実	1	イシカグマ
2	アオノクマタケラン	実	36	ノコンギク	花	2	ウチワゴケ
3	アキノノゲシ	花	37	ハチジョウアザミ	花	3	オオタニワタリ
4	アシタバ	実	38	ハナイバナ	花	4	オニヤブソテツ
5	アシボソ	実	39	ハハコグサ	花	5	カニクサ
6	イガガヤツリ	実	40	ヒナギキョウ	花と実	6	コハシゴシダ
7	イヌタデ	実	41	ヒメクグ	実	7	タチクラマゴケ
8	イワニガナ	花	42	フウトウカズラ	実	8	タチシノブ
9	ウスベニニガナ	花と実	43	ヘクソカズラ	実	9	タマシダ
10	ウリクサ	花と実	44	ホソバツルメヒシバ	実	10	ナチシケシダ
11	エダウチチミザサ	実	45	メリケンカルカヤ	実	11	ノキシノブ
12	オオアレチノギク	花	46	ラセイタソウ	実	12	ハカタシダ
13	オニタビラコ	花				13	ハチジョウカナワラビ
14	オヒシバ	実	木本			14	ハチジョウシダ
15	カタバミ	花と実	1	アオキ	若い実	15	ハチジョウベニシダ
16	カヤツリグサ	実	2	イヌビワ	実	16	ハマハナヤスリ
17	カラムシ	実	3	オオバヤシャブシ	実	17	ヒトツバ
18	キランソウ	花	4	オオムラサキシキブ	実	18	ホシダ
19	コセンダングサ	花と実	5	ガクアジサイ	実	19	マツバラソ
20	コナスビ	花と実	6	カラスザンショウ	実	20	マメヅタ
21	コニシキソウ	花と実	7	シマクサギ	実	21	ヤマイタチシダ
22	コブナグサ	実	8	スダジイ	トヅリ多数落下	今回はシダ植物 21 種を含む 86 種の植物を観察しました。最近公園内で観察されているミヤマホオジロを狙って全員双眼鏡を携帯したのですが、残念ながら出現しませんでした。昆虫ではキチョウが目立ちました。	
23	コミカンソウ	花と実	9	テイカカズラ	実		
24	コメヒシバ	実	10	トベラ	実		
25	シチトウスミレ	実	11	ハゼノキ	実と紅葉		
26	セイヨウタンポポ	花	12	ヒサカキ	熟した実と蕾		
27	タケダグサ	花	13	ヒメユズリハ	熟した実		
28	タチスズメノヒエ	実	14	ホウライカズラ	実		
29	チヂミザサ	実	15	ホルトノキ	熟した実		
30	ツユクサ	花	16	モチノキ	実		
31	ツルソバ	花と実	17	モッコク	若い実		
32	ツワブキ	花	18	ヤツデ	花		
33	ナキリスゲ	実	19	ヤブニッケイ	実		

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、海岸に棲む「イソフサヤスデ」にスポットを当ててみたいと思います。



イソフサヤスデ *Eudigraphis takakuwai nigricans*

フサヤスデ目フサヤスデ科、胴節数は11、歩肢は13対26脚。
大きさは3mm前後、海岸の岩の割れ目などに普通に見られます。ヤンバルトサカヤスデの体のように固くなく、イソフサヤスデは体が柔らかく、たくさんの毛で覆われています。

2014 12

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。
左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 ○ ガイドウォーク 講演会 「知ってるようで知らない ウミウシのおはなし」 05:30 10:47 16:15 23:04
大雪 7 ガイドウォーク 特別行事 「ウミウシに会いたい」 06:07 11:24 16:50 23:39	8	9	10	11	12	13 ガイドウォーク
● 14 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会 10:05 03:09 21:49 16:35	15	16	17	18	19	20 ガイドウォーク
21 ガイドウォーク 冬の特別行事 「リースを作ろう」 05:15 10:28 15:55 22:51	●冬至 22	23 ガイドウォーク	24	25	26	27 ガイドウォーク 八丈学講座 「公園の木を調べよう」 09:11 02:14 20:34 15:02
28 ガイドウォーク	☾ 29 ガイドウォーク	30 ガイドウォーク	31 ガイドウォーク			
09:51 02:58 21:47 16:09	10:36 03:45 23:37 17:29	11:30 04:44 18:52	01:47 06:13 12:38 20:02		この色の日 は行事があります	

イベントプログラム

講演会 「知ってるようで知らない ウミウシのおはなし」	ウミウシ博士の中野理枝氏を講師に招き、ウミウシのいろいろなお話しをして頂きます。 12/6（19:30～ 約1時間半） 小学4年生以上 ビジターセンターレクチャールームにて 無料 定員：55名
体験型行事 「ウミウシに会いたい」	採取したウミウシを小瓶に入れ、じっくり観察できます。ウミウシ博士に質問もできるよ！ 12/7（10:30～ 約1時間半） だれでも ビジターセンターにて 参加費：無料 定員：10名
植物公園季節調査会	植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！ 12/14（13:30～ 約1時間半） 中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：15名
特別行事 「リースを作ろう」	毎年恒例、島の自然素材を使っていろいろなリースを作しましょう！ 12/21（13:30～ 約1時間半） 小学生以上（1～3年生は保護者同伴） ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名
八丈学講座 「公園の木を調べよう」	毎月行っている八丈学講座。今後、公園内で樹名板を付けるための選定も同時に行います。 12/27（13:30～ 約1時間半） 中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：15名
年末年始特別行事 「体験八丈太鼓」	ビジターセンターの年末年始といえばこれ！ 太鼓たたけばストレスも吹き飛びますよ！ 12/29～1/3（13:30～16:45） いつでも・だれでも・無料 て～こ、はたきにおじゃれ！

ビデオプログラム

10:00～	八丈・海・生きものたち
11:00～	おじゃりやれ 八丈島
14:00～	おじゃりやれ 八丈島
15:00～	おじゃりやれ 八丈島
16:00～	八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です	

東京都八丈ビジターセンター 2014.12.1 第163号

開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

昨シーズンの悲慘な出来事で、振り出し以上に戻ってしまった八丈小島のクロアシアホウドリ。11月18日の1羽の上陸を確認して、やっと一歩前に進んだ気がしました。今度は一歩一歩ゆっくりな進みでもいいので、歩み続けてほしいと思います。頑張れクロアシ！（高）